

産業建設委員会記録

令和6年5月8日（水）
10時00分～11時12分
第3委員会室

【委員】川上委員長、田畑副委員長

村木委員、大谷委員、小川委員、佐々木委員、牛尾委員

【議長・委員外議員】肥後議員

【執行部】

【事務局】大下書記

【議題】

- 1 取組課題について（委員間で協議）
- 2 地域井戸端会について（委員間で協議）
- 3 視察報告書について（委員間で協議）
- 4 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 00 分 開議]

○川上委員長

現在出席委員は6名で定足数に達しているもので、ただいまから産業建設委員会を開会する。本日牛尾委員から欠席届が提出されている。早速レジュメに沿って進める。

1 取組課題について（委員間で協議）

○川上委員長

当委員会における取組課題としては、1月26日の委員会で「道の駅ゆうひパーク浜田の問題について」「地域小売店の問題について」「ゼロゼロ融資の問題について」をテーマに据える方針としたが、取組課題の内容を委員会で決定したときは、委員長から議長に文書で通知することとなっている。

今回、議長に提出する通知案を作成しているもので、これを基にテーマや具体的な調査方法について協議し、正式に決定したい。

3月7日に開催した委員会では、ゆうひパーク浜田についてはプロポーザルの仕様に反映される内容ということで期間が限られている中、先般道の駅の視察に行ったが、それはこの後の議題で協議したいということなので、2番目の地域小売店の問題についてと3番目のゼロゼロ融資の問題について協議したい。

また、旭町のまんてんの件についても地域小売店の問題と併せて、モニタリングレポートを活用しながら調査していく予定としたいと考えている。

まず調査事項については3点。目的や調査方法などは書いてあるとおりでである。このような内容でいかがか。1番については先ほど言ったように先般の視察を踏まえて、反映できるのであれば執行部に提案を行いたい。2番目の地域小売店に関しては3番と同じように商工会議所や商工会との意見交換会を組んでいきたい。同時にモニタリングレポートを確認すると言っているのも、それも含めてやっていけたらと思っている。商工会議所や商工会との意見交換については、なるべく期を逃さない程度には意見交換会をしたい。議長への提出が終わったら早々にやりたいと考えるがいかがか。

○大谷委員

よろしいかと思う。

○川上委員長

ほかの皆はどうか。そういう方向ですすめてよろしいか。

（ 「はい」という声あり ）

それでは、議長あての所管事務調査の取組課題の通知はこの内容でさせていただき、なおかつ道の駅ゆうひパーク浜田に関しては視察の所感等を踏まえて執行部に提案できる部分があればまとめていきたい。

2番については5月17日の報告を受けながら3番と同じような形にして、商工会議所や商工会との意見交換会等でもう一度確認して、できる施策があれば模索していきたい

い。以上、この内容で議長あてに送らせていただく。よろしいか。

(「はい」という声あり)

2 地域井戸端会について（委員間で協議）

○川上委員長

5月11日から地域井戸端会が開催される。当委員会のほぼ同じような内容での報告、現在の動きをするのがベストだろうということで、資料には、地域井戸端会、産業建設委員会の報告事項というのを作ってある。所管事務調査については4点となったので、美又温泉のこと、指定管理のこと、道の駅に関して、三桜酒造跡地の酒蔵について、という形で所管事務調査をやっているという内容がここに書いてある。同時に加えて、令和6年度の主な当初予算という形で5点上げてある。これをメインとして地域井戸端会で報告していただければと考えるが、よろしいか。一番問題になってくるのは多分、最後に出た美又温泉再生基本構想についてである。多く聞かれると思うが、ここには金額が入ってない。これについては各委員、自分の中にしっかり持っておいて話をしていただければと思う。

2番目の指定管理者の経営状況については、5月17日の委員会でしっかり報告できるものが出てくると思う。したがって5月17日の委員会までは、柔らかく説明いただければと思っている。

道の駅についてはこれからまた話をするところだが、先日の視察を加味して話すことになろうかと思う。私が一番気になった「地域のリーダー」というのを書いてあるので、そういうことも含めて報告いただきたらと思う。

三桜酒造跡地の蔵についても先般の視察を行っている。視察も含めて話をしてもらうことになろうかと思う。

ということで委員会の報告事項としてはこの内容にしたいと思うが、よろしいか。

○大谷委員

①、②、③はよろしいと思うが④のところ、三桜酒造の跡地の活用だけで良いのではと認識している。この後も話題に出るだろうが、先般視察した酒蔵も元の形そのままにはなっておらず移転して組み替えている。この文面だと酒蔵そのものを残すかのような言い回しのように受け止められるが、そうではないのではという認識を持っている。

あと、下から2行目、「大事な商業の歴史」という話の中で、一企業ということで浜田市にどこまで関わりがあったか。大事かどうかは意見が分かれるかと思う。あと、文化的財産と言えるまでの価値は、この前の視察の中でも見いだされていないのではないかという気がしている。商業的な価値は当然、歴史の中で出てくるとは思うが、これまでの流れからしても、ここまで言わなくて良い気がしている。

○川上委員長

大谷委員が言ったのは、跡地の活用についてという題にして、酒蔵がメインではなく跡地をどうするかを出してもらいたい。加えて、確かに三桜酒造は大事な商業の

歴史かもしれないが、本当に浜田市の代表かというのはつかめてないので、それについては書く必要ないのではないかということだと思ふ。大谷委員それで良いか。

○大谷委員

はい。文化的価値についても評価が分かれるかとは思ふ。

○川上委員長

商業の歴史・文化だけで置いておこうか。文化もやめて、歴史だけにしようか。

○大谷委員

歴史的には当然一定の貢献をされてきているとは思ふが、それを委員会や議会として前面に出していくほどではないかと思ふ。今は論議の最中なので、あたかもそうだという認識を持っているかのように報告するのはどうか、ということである。

○川上委員長

今の大谷委員の意見も含めて、この後やっていく視察に関する皆の意見も含めて、ここは少し練り直したい。

○佐々木委員

せっかく正副委員長に書いてもらったが、僕の感覚としては良い資料だし、これを参考にさせてもらう。大谷委員が言われるように、まだ議論の過程である。それぞれいろいろ価値観や思いがあると思ふので、それぞれの感覚で話をしていかないと、一字一句そのとおりのものはなかなか難しいと思ふ。これを基にしながら自分なりに話していく、そういうニュアンスが良い。まとめるのも難しいと思ふ。

○川上委員長

佐々木委員から、これをベースにして個々委員の考えを出してもらっても構わないとの意見が出た。

○田畑副委員長

議会報告会での説明というのは、あまり変わったことを言ってもいけない。

○佐々木委員

時間も多分、三つの委員会で10分しかないので、この中でも選ぶことになる。

○川上委員長

4点は考えているが、そのうちこれとこれという程度だと思ふ。

○佐々木委員

どのみち、話せるのは三つか四つくらいだと思っている。その中の三桜酒造跡地の活用、美又温泉、道の駅関係くらいは指定管理も含めてざっくりと、三桜酒造跡地などは施政方針の中でこのように言っていると、今的事实だけ話をしようかと思ふ。あとは個々の委員で、委員長の案を参考に話をしていくような流れが一番では。

委員長から、こういうことを言ってほしいというのがあれば皆でまた協議すれば良い。

○川上委員長

私はここに書いたとおりで。

○佐々木委員

これはこれで参考になるので。

○川上委員長

これは私が感じたことを書いているので、このような方向で話をしたら良いのではないかというだけ。佐々木委員が言われたように、説明するときにその中で個別に説明していただく。これは手元に持っておいてもらって、報告の中でやっていただく。それで良いか。

○小川委員

結局④の1、2行目、果たして産業建設委員会として認識が一致できているのか少し疑問がある。「多くの委員が酒蔵の活用を望む」とあるが、本当にそうなのだろうかというのと、執行部もその方向に動き出しているとあるが本当にそうなのか。もしかしたら正副委員長には動きが見えるのかもしれないが、私とすれば、実際に現地へ行って見学した中では、執行部からは見てのとおりといった反応しかなかったので、酒蔵そのものの活用や、かながわSAKAGURAのような形の保存といった観点はむしろないのでは。かながわSAKAGURAは所有者の意向がかなり強く、また拠点施設が欲しいという市の思いがある意味一致して動き出したといった経過がある気がするが、三桜酒造跡地の場合は、価値について所有者の方もあまりこだわっておられない印象があった。実際委員も含めての認識の中で、確かに酒蔵の活用を望んでいる方はおられるが、どこまでそれを活用できるのか、まだ少し議論の余地があるのではないか。統一見解までは達してない印象を受けていたので、書き方に少し違和感がある。

○川上委員長

大谷委員、佐々木委員、小川委員に言われた内容を加味して、三桜酒造跡地については、「多くの委員」という表現は抜く。酒蔵の材については、少しでも今後やっていけないといけないかと。酒蔵そのものの活用が難しいというのは皆分かっている。あとはどう使うかの話だろう。用材に使いたいという声もあったので、それについて入れる入れないは別にして。2行目までは抜こう。良いか。

(「はい」という声あり)

また、「三桜酒造は浜田市の大事な」の「大事な」を抜き、「浜田市の歴史的財産であることは間違いなく」にさせてもらって、産業建設委員会報告事項という形でまとめさせていただきたいと思うがいかがか。

(「はい」という声あり)

よろしく願います。

(「なし」という声あり)

3 視察報告書について（委員間で協議）

○川上委員長

先般視察を行った道の駅と酒蔵について、皆に所感を提出してもらった。また、道の駅については大谷委員、酒蔵については小川委員に報告書を作成してもらって

る。これを読んでいただき、まだ何か入れ込むべき事項があれば意見を伺う。

資料読み込みのため暫時休憩する。

[10 時 22 分 休憩]

[10 時 33 分 再開]

○川上委員長

委員会を再開する。道の駅及び酒蔵について各委員から所感が出ている。この所感をまとめ、最後に総括に組み込んでいきたい。委員の所感について皆で一緒に考えていきたい。私が作った所感については、最後の部分はぜひ総括に入れたいと考えている。またその前の、人、物、金がそろってもなかなか難しいが、特に人については大事だということを書いていきたいと思っていた。次は副委員長。

○田畑副委員長

現状の浜田の道の駅と比べると、向こうはまちづくりをするためにある程度造ったというのだから、もともとのスタートがかけ離れているので、浜田では一概に参考にならないと感じている。

○川上委員長

3番目の項目はどなたか。

○村木委員

私である。今回改めて、何のためにということ、恐らくランドデザインからスタートしたところにその必要性を痛感した。これは最終的に浜田市に計画がないというところに問題があると思う。

次に言いたいのは「商工会などまちづくり会社の設立」にとっても興味を持った。ネットを調べると国交省がQ&Aを出しているので、ある程度国が認めている、昔で言う第三セクターを今風にしたような説明があった。道の駅をまちづくり、観光拠点に位置付けて地域密着型云々と書いてあるが、ビジョンを達成するためにはどういった手法が要るか、これは判断に値するか、先ほど副委員長も言われたように、なかなか入り口が違うので、浜田のゆうひパークにはなじまないかもしれないが、今回はそれを言い換えるならば1市4町が協働連携によって一体となったまちづくりの可能性を学んだような気がする。

特別委員会でもあったが、まちづくりとはどうしても地縁に思いを寄せてしまうが、新たな公民連携もありだということ学んだ。こういうことを報告したい。

○大谷委員

大きくまとめれば三つかと。まちづくり株式会社については背景など違ってくるので、このままというのはなかなか難しいのだろうという思いではあるが、以前の総務文教委員会でもあったが、行政でもなく民間でもなく、その中間的な組織が幅広く動いてメリットがあるということもあった。したがって、中間的組織が今後の運用を考えたときに、それも排除しない状況はあっても良いのかと。

また、地元の商品をいかにそろえるかというオリジナルな状況。ここでしか買えないものを用意するのだと社長が言われていた。

それと公設で運営していくとなったときに、まちづくりというほどではないが観光や、来られた方が周辺観光地に出向かれるような拠点といった意味合いをもう少し強めていく必要があるのではないかと、三つの点は提言として必要かと考えている。

○川上委員長

大谷委員は三つだった。次、小川委員。

○小川委員

最初のところでは皆が言われたように協働連携による一体となったまちづくりという方針に基づいて進められているのが特徴だったが、そのことがどう具体的に表れているかが運営方針で明確に出されていることがすごく大事ではないかと思う。要するに地域全体の収益を高めていく、そのことを明確に掲げておいて、収支計画の中では収益の一部を地域振興事業へ還元しているというところ。額や割合は別にしても、協働で進めている姿というか、最初の3町のまちづくりと一緒にいうか、共存共栄というか。そういうコンセプトが明確に進められているのが非常に参考になったので、そこがポイントかと思う。

それ以下の部分は、実際に道の駅を運営される事業者の方に参考にしてもらいたい。こういったところに力を入れてもらいたいし、地元の人が営業できるような道の駅となると出荷者の問題や、水産ではさばく人を必ず置いている。地域に密着した道の駅ということでの細かい部分では必要ではないかと。これは実際には経営の部分での努力で、そこは参考にしてもらえればと思う。1番は収益の一部を地域振興へ還元したい、ここがポイントだと思う。

○川上委員長

小川委員からは大きく二つだった。次は佐々木委員か。

○佐々木委員

細かくは書いてないが、総じて運営会社社長の様々なご苦労が一番印象に残った。指定管理のような実態があったわけでもなく、素人同然の経営で借金もほぼ完済されたのは、この道の駅だけではないだろうがとても参考になる。

どれを一番出せば良いかだと思うが、今回浜田の場合は新しい形、公設民営だが指定管理ではなく民間に貸し付けという新しい国の制度を用いて取り組むということで、民間活力や思いが十分発揮できる形になるので、中心者のやる気や思い入れが入るような新たな道の駅にしてもらうようお願いできたらと思う。

○川上委員長

佐々木委員からは、会社経営者の動きとこれから先の民間活力について。

○佐々木委員

今の道の駅も10年以上前から赤字になっている。今の管理職の方も非常に苦労されていると思うが、実際こうしていろいろなノウハウなどを研究しながら立て直してこられた事例もあることは参考になった。

○川上委員長

結構な数が出たので、これで1回総括したいと思う。その後に皆にお見せして、これで結構かどうか確認させてもらう。

続いてせっかくなので、かながわSAKAGURAについて伺っていきたい。私はこれについては最後から二つ項目を作っている。この二つが浜田のためには必要かと考えている。酒蔵については骨格や梁を残すという程度で置きたいといった形になりそうな気がする。ある程度そこにあったものを生かすことを考えてもらいたいとだけは書いておきたい。

○田畑副委員長

民間の酒蔵を市に無償で提供するという事で、地域の皆から、地域活性化を図ることを目的として施設を指定管理で運営していこうということだった。年間500万円の指定管理料だが、表面上は非常に良い結果になっていると思うが、一方で浜田の三桜酒造跡地を考えると、解体して浜田市に買ってもらう前提でやっているの、最終決定したわけではないが、この建物を浜田で三桜酒造に該当させることはなかなか難しいのではと思った。

○川上委員長

建物を活用するのはなかなか難しだろうという気がしたと。続いて村木委員。

○村木委員

酒蔵のイノベーションはもちろん、耐震課題やその他建物の状況にもよるが、施設にはその空間の趣や歴史的希少価値のあるものは大切にしたい。なぜ施設を造るのか、その施設をどう生かすのか、ビジョンを達成するためにどのような行動を起こし、何を造り、何を生かすかという計画が必要だと思った。今回のかながわSAKAGURAにおいては、寄贈された方の思いが強かったのだと思った。引き受けた当時の旧町、そして岡山市が受けてその場所を歴史・観光の拠点にしていこうという動きがあり、地元のレストラン業界の方が指定管理を受けられた。今後は山城ブームにもあやかしていきたいという意向もあった。そのように目的や目標、ねらいなどがある程度かみ合う必要がある。これを浜田に置き換えるとなかなか難しいところもあると思っているが、大切にしていきたい空間だということではしかない。

○川上委員長

希少価値ということで。続いて大谷委員。

○大谷委員

先ほども少し触れたが、移転して復元したという状況であれば確かに歴史的価値は当然高まるが、見られたように酒蔵で使っていた材を使って新たにあの建物ができた形だと思う。とてもあの容積では酒は造れない。そこは持ち主の意向も踏まえながらそれに近い形になり、なおかつ団体客を受け入れる飲食店がなかったという地域的ニーズもあり、そこに全体面積の3分の2はレストラン、残り3分の1が周辺の歴史を紹介する資料、いわば貸館的な要素の建物ができた。地域ニーズに合ったから成功していると認識した。歴史的価値のあるものに評価を当てて残していくことは大事とは思

うが、浜田においてはそこまでのものはないと思っている。したがって、使える材は使うことを検討していくということではよろしいのではないかと思う。

三桜酒造跡地のことと絡めていくなら、やはり地元ニーズをしっかりと踏まえた中で建物を造っていかないと、長い目で継続維持していくことは当然難しくなる。全体構想をきちんと捉えるという意味では、駅前からあの通りを同時に組み立てていく。まちの設計を踏まえながら跡地利用は考えるべきだという視点で捉えた。

○川上委員長

大谷委員からは、地域ニーズをしっかりと捉えて検討しなければならないということだった。続いて小川委員。

○小川委員

三桜酒造跡地の取得と今回のかながわSAKAGURAとは、経緯の違いがすごくあるというのが最初の感想である。かながわSAKAGURAは所有者の意向と旧町の思いがうまくマッチして具体化したのでは。例えば江戸時代後期に建てられた建材、酒蔵建築に使われている材料によって芸術空間をつくり出している、これが最大の魅力であり特徴ではないかとは思った。実際三桜酒造の現地調査をしたが、あまりそういうものは見当たらなかった。所有者も、更地にして市に活用してほしいという形につながっているのでは。復元や改修という形を取りながら保存するのではなく、土地の有効活用の方向で検討するのが妥当ではないかと、感想を含めて感じた。

○川上委員長

大谷委員も言われたが、酒蔵が歴史の中でどう生きてきたか見えてない部分があるのだろうか。浜田は経緯も含めて若干弱い部分があるのだろうか。最後、佐々木委員。

○佐々木委員

レストランが指定管理者なので、当然レストラン運営が主流になっているイメージが一番ある。酒蔵のもともとの材料は確かに希少なものがしっかり使われていて、これ目当てにというのはあまり話の中からは見受けられなかった。一番感じたのは、月に1500人のお客が酒蔵の見物も含めてレストランに来ておられるとのことで、ここまで日の目を浴びるとは思わなかったという担当者の話があった。ということは、三桜酒造跡地とは違う感覚でここを活用されているような感覚を受けた。ここまで人が来られているなら、逆にレストラン部分を活用して観光面を今後膨らませていきたいといった話があったので、地元の城跡も含めて、まだいろいろな活用策が考えられると思った。レストランのイメージが強かったので、浜田の酒蔵の関係として共通点がなかなか見いだせなかったかもしれないが、こういった活用もあるのだと参考にはなった。

○川上委員長

ニーズに合わせた形になっているということだろうか。浜田のニーズといえば神楽が出てくるかもしれない。その辺は今後また検討だと思うが、あくまでも今の酒蔵はこういう状態で、今後活用するに当たっては資源を生かす。それは何かといえば地

元だということである。

今、何点か出てきた。これについても記録しているのでまとめさせてもらいたい。同時に、先ほど言ったように皆へ返して再度検討いただくことになろうかと思う。

このことに関しては、この形で報告書を提出させてもらって良いか。

○大谷委員

考察はここには載らないのか。

○大下書記

これには総括は載せてない。

○大谷委員

総括ではなく考察は、議長報告の中には載るのか載らないのか。

○大下書記

前回は載せてないのだが。

○川上委員長

所感は載せたが、最終的な総括は前回していない。総括についてはレポート報告した際に出した。

○大谷委員

ただできたものを出すだけで良いのであれば、それ以上の労力を掛けずに必要なところに掛けるのが合理的かとは思いますが。

○川上委員長

この中に総括を入れるのは、それほど時間を掛けずともできると思うが。どうするか。他の委員会もそういうことをやっているかどうか確認を。

○大谷委員

前に総務文教委員会を経験した中で、一応所感ができたらそれをまとめた考察という形で報告書に入れた。総務文教委員会としてはこのような捉え方をしているというまとめを報告書内に載せた経験はある。

○田畑副委員長

載せて終わりか。

○大谷委員

はい一応。その報告書を基にして発表用のプレゼン資料を作った。あくまでもプレゼン資料の内容は、やはりまとめたものを根拠に発表用にさらに集約させたということになっていた。

○川上委員長

最後に総括して中に入れよう。それを基にして最後のまとめは村木委員だったか。

○村木委員

はい、まとめる。

○川上委員長

それでは、もう一度総括を入れたものを皆に提示する。レポートについては6月でも別に問題はなく、特段急ぐ必要はない。6月定例会議初日の全員協議会で発表する

形にしようか。

(「はい」という声あり)

ではレポートの発表は6月17日の全員協議会で。先ほどから出ている視察報告書については、地域井戸端会もあるので若干時間をいただき、来週末くらいまでにまとめさせてもらって、皆に再度提示して視察の報告書としてまとめていきたいが、それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

ではよろしくをお願いします。

4 その他

○川上委員長

委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

では私から一つだけ。先般浜田市の建設業界の方からこのように聞いた。「現在浜田市内において建設業における仕事が極端に減っている。県ももちろんだが市も減っていて、多くの方が地域外へ出られている。こういう状況が続くなら災害時の対応も難しいし、冬の除雪も難しい。ぜひ話を聞いてほしい」と。同時に建設業界の方は市に対して嘆願書などを作られると思う。委員会として話を伺いたいので、ぜひ建設業界の方と意見交換をどこかでしてみたいと考えている。お任せいただければ、請願または陳情または嘆願などを出された後で話を伺いたいと思うがいかがか。セッティングしてもよろしいか。

○田畑副委員長

我々産業建設委員会と業者が話をしても、ここでは事業計画を作れない。事業計画が作れないところには金がない、金がないところへは建設業者も来られない。我々が聞いてもどうにもならない。今までの例からいくと、あまり効果がないと思う。

都市建設部と産業建設委員会とで話したときに、事業計画の目星をある程度付けるくらいのことをやらないと、計画がないところには予算が来ない。助成金を頼りにやっているから、今の工事も15年くらい掛かっている。県の金があってもそう簡単にできるものではない。あまり効果がないことをするよりは、都市建設部に言うほうが良いかもしれない。

○川上委員長

担当部局を動かすためにも、やはりある程度意見を聞いておいたほうが良い気がする。副委員長は今そう言ったが、効果がないなど言わずに一度話を聞いておきたいと思う。

○大谷委員

なかなか難しいと認識はするが、苦境を訴えておられる話を、何もできないから知らないというわけにもいかないと思うので、話を聞いてまずは最低限共感してあげるくらいのことはあっても良いかと思う。先ほど副委員長も言われたように、大きな

計画を立ち上げないと、それこそ都市計画のようなレベルまで話を大きくしていかないと、長期的な予算を確保するのは難しい。浜田の課題は何かということと一緒に考えるスタンスを示すだけでも意味はあると思う。

○佐々木委員

委員長が言われた提案がどこから出てきたのか分からない、建設業協会なのか現場の会社の方なのか。

○川上委員長

協会。

○佐々木委員

市長と、議長団も同行するが、建設業協会です市に対する要望事項をまとめたものを、毎年二十数個質問して、それに市が回答する会を年に1回やっている。しかし同じ項目がもう何年も続いている気がする。議会が新たな事業を立ち上げることは当然できないが、議会が少し力添えできることも多分何点かはあると思うので、その辺を整理して、共有する意味合いも含めて何かできることを当所管委員会でやるということは、非常に重要だと前から思っていた。農業、商業、水産業の話は結構出るが、建設業界は我々が入り込むことはなかなかできてないと思うので、これを機にいろいろな現場の悩みを共有する意味合いも含めて、やったほうが良い。

○村木委員

建設業界の力は、防災上にもかなり影響が出てくると思っている。今、三隅の河内において県河川のしゅんせつで河原整備をしてもらっている。ほんの少しだが、県河川も含めてそういったものを広げてもらおうと大きく変わるように思う。重機オペレーターの方は災害時に強いと思うので、そういった話を聞くことも大事だと思う。

市の河川も今年度でしゅんせつが終わると聞いているが、もちろん何らかの形で事業延長ができないか模索も可能かと個人的に思っているので、ぜひ話が聞ければと思う。

○川上委員長

では私が提案した、協会または事業者から意見を伺う機会を設けたいと思う。その際はどうぞよろしく願います。

以上で産業建設委員会を終了する。

[11 時 12 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員会委員長 川上 幾雄